

## 第 63 回日本生理学会中国四国地方会奨励賞【一般部門】

山口大学大学院医学系研究科生体機能分子制御学分野

張 影

この度は、第 63 回日本生理学会中国四国地方会において奨励賞を頂き、大変嬉しく光栄に思います。

私は中国大連医科大学を卒業後、群馬大学医学部病態薬理学教室に留学し、収縮蛋白質ミオシンの研究を行い、2010 年 3 月に医学博士を取得しました。翌 4 月に山口大学医学系研究科・生体機能分子制御学のポストドク研究員となり、血管平滑筋異常収縮の分子機構の研究を始めました。教室では、病的シグナル経路としてスフィンゴシルホスホリルコリン/Fyn/Rho-キナーゼ系を見出していたので、活性化された Fyn が直接結合する分子群を探索し、Fyn の新規下流分子としてパキシリンを発見し、血管平滑筋のストレスファイバー形成と細胞遊走に重要である事を見出し学会発表しました。日本へ留学して最先端技術を学び、素晴らしい研究者達と出会った事は、私の人生にとって一番大きい宝物です。小林先生を始め、教室の先生方のご指導を賜りました事、深く感謝しており

ます。今回の受賞を励みとして、一日も早く血管平滑筋異常収縮の分子機構の全容を解明し、血管病の治療・予防に繋がるように、引き続き頑張りたいと思います。



(左から右に、岸博子准教授、松尾欣也君（学部学生）、張影、小林誠教授)